

# 人と人の「コラージュ」 それが「バーボンクラブ」



上段左より宮田達夫さん、新井満さん。下段左より石阪春生さん、加藤隆久さん

■出席者（順不同・敬称略）

新井 満（作家・電通マン）

石阪春生（画家）

加藤隆久（生田神社宮司）

宮田達夫（ジャーナリスト）

司会 小泉美喜子  
（本誌総編集長）

絵描き、作家、ミュージシャン、  
宮司…、自称「土着民」もいれ  
ば「エトランゼ」もいる。な  
んとも不思議な「バーボンク  
ラブ」。神戸で生まれて30年  
目にメンバーのひとり、作家・  
新井満さんも東京から駆けつ  
けて久々の顔合わせ。何が飛  
び出すやら…

それぞれの世界で育っていく  
活力に

―バーボンクラブ発足のきっかけは？

宮田 75年ごろ、モダンな街、神戸に社交場があまり無かった。「バーボンでも飲みながら」という場所を作ったらどうだろうと言ったら、たまたま、卵から首を出したばかり、まだお尻に殻をくつつけているような：若くて情熱に燃えた錚々たるメンバーが集まってきたというのがきっかけかな。

新井 ネーミングが良かったね。ウィスキーではつまらないし、ビールでもダメ。

宮田 当時、バーボンは珍しくて時代の先端を行くという感じだったからね。

―新井満さんは、どういういきさつでメンバーに加わるようになったのですか。

新井 組曲「月山」を出したころだから、まだ二十代だったかな。今岡領子さんがモダンダンスで「月山」を取り上げるという時に宮田さんが取材に来られたんです。

石阪 そのころから一業種一人で、自然と人が集まってき

ましたね。

宮田 それにしても、酒を全く飲まない加藤宮司がメンバーにいるのも不思議（笑）。

加藤 生田神社は神戸の酒造り発祥の地。いわゆる「灘五郷」の原点は生田にある。そんな所にいる私が酒を飲んでいたら、どっぷり浸って今ごろはもうこの世に居なかったんじゃないかな（笑）。私にとってバーボンクラブは、清水の中に酒を一滴垂らしてもらっているようなものですよ。―どこに集まって、どんなことを話し合っていたのですか。

宮田 初めは必ず誰かの家に集まり、お料理を作ってバーボンだけを飲むということになっていました。話すことといえば、とりとめもないこと、のけなし合（笑）。けれど誹謗、中傷の類じゃないから害がない。かえって、それが活力になり、それぞれの世界で育っていったんじゃないかな。

石阪 当時、宮田さんが新聞に私のことを書いてくれたんです。

宮田 私が取材したころの石阪さんの作品はまだまだ繊細な感じだったけど、重厚さを増してきて、今や大画伯！

加藤 神戸市に50点の絵を寄贈したそうじゃないですか。一億円相当だって！石阪さん、もいよいよ人生の集大成だね。震災の時には生田神社にも絵をいただきましたが…。

石阪 震災直後に加藤宮司が電話してきて「無事か?!良かった。生田の神さまのおかげ。感謝するように！」ですからね。寄贈しないわけにいかない…（笑）。

私は小曽根くん（メンバーの小曽根実さん）もすごいと思います。言ってみれば資産家の「ぼんぼん」なんだけど、音楽をあそこまでやり続けたことがすごい。そして、息子さんは今や世界的なミュージシャンですから。

加藤 満さんはまた、本を出したんだね。自由訳「般若心経」（※）、神戸新聞で取り上げられているのを読みました。すばらしい。

石阪 満さんは不思議人間。天から神様が音楽、詩、小説



新井満さん



加藤隆久さん

「エトランゼ」を温かく受け入れる街・神戸

バーボンクラブにはテーマソングもありました。私も覚えていました。

加藤 「バーボンクラブのBはビューティフルのB、バーボンクラブのBはボーイズのB、ビューティフルボーイズクラブ」。

石阪 なかなかシャレた、きれいな曲想だったね。

宮田 作詞・作曲、新井満。

新井 えっ！ 僕がそれ、書いたの？

宮田 そうですよ！ 当時、神戸で電通に勤務していた満さんが、

職場から電話で歌詞を伝えてきた。あの時のこと、

今でもよく覚えています。そして二番の歌詞が「バーボン

クラブのBはボールズのB」。

新井 そりゃ名作だ！（笑）多分、昼休みに5分くらいで

作ったんだろうなあ。しかしそれ、よく採用になったね。

宮田 そんな歌が自然とできてしまうような雰囲気がある

時代でしたね。

石阪 確かに、いい時代の神戸だったね。ひとつ前の世代から受け継いで、我々の時代に具現化した。

宮田 バーボンに神戸が浸み込むように、当時の満さんの頭の中に神戸が浸み込んでいたんだろうな。

新井 とんでもない。僕は浸み込むどころか、まだ訳が分からない状態でしたよ。友人も親戚縁者もない神戸に突然やって来たわけですから。

でも、神戸は僕みたいな「よそ者」を温かく迎えてくれる奥深い懐を持った街だと思えましたね。僕にとつて神戸は「第二のふるさと」。バーボンクラブはその象徴です。

宮田 外国人がたくさん住んでいるからね。

新井 もしかすると、みんなエトランゼなのかもしれない。石阪 エトランゼが創り上げた街だからこそ後発のエトランゼを温かく迎えることができるんですよ。神戸や兵庫

は、せいぜいは百五十年くらいの歴史ですから、私なんかは神戸の中ではどちらかとい

：と矢を放つと次々に満さんに当たる。「これで絵まで描いたら、私はたまらないね」なんて言ったら絵本を書いた（笑）。「やっぱりやるか」と思いましたよ。

新井 バーボンクラブは不思議人間の集まり。いろいろな刺激を受けましたよ。

うと土着人ですが…。

新井 石阪さんのような先住民が後から来るエトランゼを温かく迎えてくれる街が神戸。

石阪 これは神戸のDNA。私たちの先祖が開けてきましたから、その影響を受けています。先祖が閉鎖的じゃあ、できないことです。



石阪春生さん



宮田達夫さん

“花”のある時代に生まれ、育ったバーボンクラブ

—こんなふうに30年も続いているのは何故だと思いますか。石阪 大き過ぎない街だからできた。神戸のローカリテイーが育てたんだろうね。

宮田 そういう土壌があつて、知的水準が同じメンバーが集まった。共通語が通じるから、職種が違つても分かり合える。メンバー全員がワンテーパールに座れる人数というのも良かったのかな。

新井 みんな好奇心のかたまりのような人ばかりだから続いているんでしょうね。

—ポートピア81や神戸ユニバーシアード85開催など、パワーのあるいい時代でしたね。

加藤「株式会社神戸市」とまで言われて、全国の他の地方自治体から羨望の眼差しで見られていたころ。活気があつて、東門街などは人や車が渦を巻いていました。私は地鎮祭の御

祓いで大忙しだったしね(笑)。

石阪 満さんも、あの時代の神戸だからものを創ることができたのだろうし、その後の土壌を築くことができたんでしょうね。

新井 僕はパワーが生まれる源はコラーージュだと思つています。元々は芸術の世界で、全く関係のないものを同じ平面に並べて別のものを創り出す手法。異質なものが出合つて火花を散らし、想定外のもので出来上がる。

神戸はエトランゼたちのコラーージュだし、バーボンクラブは人間関係のコラーージュ。僕がバーボンクラブで石阪さんと出会つたのがコラーージュ。その縁で「神戸っ子」に出会い「アルファベットアベニュー」を連載したのもコラーージュ。そのコラーージュがなければ、ものを書くことはなかったでしょうね。だいたい、ここに画家と宮司が相対して座つて話しているのが、まさにコラーージュでしょ(笑)。

宮田 すべてに“花”のある時代でした。ポートピア81は地方博の第一号。ごちゃ混ぜ



草創期のバーボンクラブ(ポートピア81のサントリー館で)

「おでん文化」の関西だから  
できたんじゃないかな。

新井 「おでん文化」も「コ  
ラージュ」(笑)

宮田 何やかんやあっても、「い  
ざ」となると、こうやって集  
まってきて、話が広がってい  
く。これがバーボンクラブな  
んですよ。

**充実した「今」を楽しむ**

—最後に、これからのバーボ  
ンクラブについてお話しくだ  
さい。

宮田 マンネリは永遠の続き  
である。みなさんが存在する  
限り、バーボンクラブも存在  
する。

石阪 偉大なるマンネリだね。

加藤 今では、東京やハワイ  
(?) などバラバラになって  
それぞれに忙しい日々を送っ  
ています。神戸に住むメンバ  
ーは顔を会わせる機会もある  
ものの、残念なことに神戸の  
人間は仕切りがヘタ。神戸っ  
子の「五線紙の街」の連載が  
あって、この座談会も成立し  
たわけだし、バーボンクラブ  
存続のためにこれからも宮田  
さんに頑張ってもらいたいな



30年目に集ったメンバー。左から新井満、石阪春生、中西省吾〔手前〕(デザイナー)、若柳吉金吾〔奥〕(邦舞家)、小曾根実(ミュージシャン)、松本幸三(テノール歌手)、西正興(株式会社神戸スイーツポート相談役)、筒井康隆(作家)、加藤隆久、宮田達夫。他にも新谷瑛紀(彫刻家)、故 松井一郎(元神戸文化ホール館長)、故 長嶋隆(元神戸地下街株式会社副社長)、故 竹内広光(写真家)、故 楯崎四郎(元兵庫県副知事)がバーボンクラブの主なメンバー(敬称略)

あ。

新井 神戸とバーボンクラブにはいろいろな思い出がありますが、一番何を学んだかという点と人生の楽しみ方。明日でも昨日でもない“今”を楽しむ。みんな、実に遊び方がうまいですからね。

宮田 それは、これからのシニア世代に学んでほしいことです。

加藤 “今”つまり現世を充実させて楽しくということは神道につながるもので…

新井 いやいよ神道の極意に達した(笑)。

宮田 どうも長くなりそうだな…。そろそろ他のメンバーも到着するころ。続きはバーボンを飲みながらというのはいかがですか？

全員 いいですねえ。そして：

“Going My Way”  
ならぬ“強引 My Way”  
な神戸っ子たちの長い夜が、  
バーボンとともに更けていった。

(05年12月26日レストランモーヴにて)

※新井満著「自由訳『般若心経』」  
朝日新聞社 一〇五〇円



「人と人の心をつなげ、平和な世界をつくりたい。音楽はそのひとつの手段です」と熱く語る池宮さん（ホテルオークラ神戸にて）

## ■音楽インタビュー

# 音楽で平和な世界をつくりたい

## 池宮正信（ピアニスト）

インタビュー／小泉美喜子

阪神・淡路大震災で倒壊した「神戸栄光教会」は04年10月に、ほぼ元のスタイルを復元して蘇った。これまでもチャリティーコンサートに出演するなど再建に尽力してきたピアニストの池宮正信さん。同教会でのクリスマスチャリティーコンサート「母からの贈りもの」（05年12月3日）を終えた池宮さんに、今までの活動、そしてこれからについてお話しただいた。

私への「母からの贈りもの」は無私の愛

―再建された神戸栄光教会でのコンサートいかがでしたか。

池宮 クリスマスコンサートにはびったりの雰囲気でも気持ち良く演奏できました。教会再建のためのチャリティーコンサートにはラグタイムオーケストラとソロ、合わせて5度にわたり出演させていただきましたので、再建されたすばらしい教会を見て本当にうれしく思っています。

— 今回のコンサートは「母からの贈りもの」ということですが…。

池宮 私之母は昨年、80歳で急に天国へ行つてしまいました。せっかくこの地球に生かされている命。少しでも良いことをしたい。母は自分の行動でそれを伝えてくれました。母が教えてくれた見返りを求めない無私の愛の尊さは私にとつて「母からの贈りもの」。人生の指針になっています。生きている間には母のありがたさを感じないものですが、今の私、ピアニストとしての私が在るのもすべて母のおかげです。そんな思いをこめて母が好きだった曲を盛り込んだ演奏をさせていただきます。

— 生まれ育ったのは京都ですか。

池宮 生まれたのは奉天です。母方の祖父・渡辺守重は同志社大学神学部を卒業後、奉天で教会を創設。戦時中は帝国主義に反対し、アメリカからヘレン・ケラーを招き満州中を回ったというほどですから、かなり呪われたようですが、教会の信者が非常に多くて、軍もどうすることもできなかったという事です。母は奉天で育ち、寄宿生活をしながら神戸女学院に通っていました。英語がペラペラでしたから、ヘレン・ケラーの通訳もしたということです。そこへ、京都大学で博士号を取ろうとしていた時に召集された父・池宮正行が行き、母と出会い、奉天の牧師館で私が生れました。

父は戦後シベリアに抑留されましたが、何とか家族全員で引き揚げて来ることができました。母は私を首からぶら下げて帰って来たといいますから大変な苦労だったと思います。

— 奉天のことを覚えていらつしやいますか。

池宮 ロシア革命の亡命者が多く住み、ロシア正教の教会もあるとてもエキゾチックな街だったようです。はっきりした記憶はないのですが、そこで経験した戦争の怖さ、難民の苦しさは感覚として体に残っています。

— アメリカへはいつ行かれたのですか。

池宮 高校一年の時、京都大学教授だった父がカンザス州立大学から客員教授で招かれ、家族で渡米しました。家族が帰国してからも私だけが残り、それ以来アメリカで暮らしています。

**宗教の根本にあるものはすべて同じ**

— クリスチャンの中で生まれ育ったんですね。

池宮 そうですね。その後の人生もクリスチャンの縁で導かれているように思います。祖父の親友だった清水安三さんが創立した桜美林大学のオリジナルになるオハイオ州のオーベルン大学に、私が何も知らずに入学したことも不思議な話です。元町ミュージックウィークや神戸ジャズストリートに出演させていただいているのも、今回の神戸栄光教会でのコンサートもすべてそうですから。

— 禅寺で修行されたこともあるとか。

池宮 アメリカへ行つてから私は禅宗に非常に興味を持ちました。当時（70年ごろ）盛んだった座禅をするようになり、正式に習いたいと日本へ帰り、京都の竜安寺大珠院の盛永宗興老師に指導いただきました。そして老師がアメリカでスタートさせた禅寺・月泉院で10年間、



雲水生活をしました。その間はピアノもやめて  
いました。

—10年は長いですねえ。

池宮 早朝から座禅三昧の厳しい修行ですから  
時間がアツという間に過ぎ、気が付いたら10年  
が経っていたという感じです。そこで私が最終  
的に分かったことは、仏教、神道、キリスト教  
も根本は同じということ。古くから宗教戦争で  
「俺が正しい」「お前は間違っている」と争つて  
きましたが、無駄なこと。違いを指摘するの  
でなく、共通点を見付けてお互いを認め合うこと  
が大切だということですよ。

—また音楽の道に戻られたのは？

池宮 これも、たまたま寺へ座禅を組みに来た  
有名音楽家のフルートと合わせて演奏をしたん  
ですが、これがメチャクチャおもしろくて……  
「また音楽をやりたい」という気持ちになりま  
した。

—ところで、奥さま・とも子さんとはどこで？

池宮 彼女が東京に居たころ友だちに誘われて  
私のコンサートを見に来ました。「おもしろい  
わね」なんて思った程度だったようですが、大  
阪でもまた誘われて見に来たそうです。そして  
浜松のキリスト教系の看護学校で教えていたと  
きにポスターを見て「この人知ってるわ」と思  
ってコンサートに来てくれました。その時、私  
がステージから「アメリカのメイン州でコンサ  
ートをやっていきます。きれいな所ですから是非  
来てください」と話したのを聞いて、旅行がて  
らやって来たのです。

これも不思議なご縁です（笑）。

気が付けば創設者に

「アーカディ音楽祭」

—メイン州でのコンサートというのは、80年  
に池宮さんが創立された「アーカディ音楽祭」  
ですね。

池宮 禅寺でフルートと一緒に演奏するのがあ  
まりに楽しくて、そのうち演奏旅行にも同行す  
るようになりました。美しいクラシック曲を地  
元の人々に聴いてもらいたいとホームコンサ  
ートを開いたのですが、これが好評。手狭になり  
農家の納屋を借りました。干し草の上に座って  
聴いてもらっていたのですが、これがまた好評  
で（笑）、牛小屋も「ギューギュー詰め」にな  
ってきて、牛さんにも出てもらうことになり……  
（笑）。「それならぜひ、教会で」と牧師さんか  
らお話しをいただきました。そのうちに「チケ  
ットを売ってはどうか？」という話しが持ち上  
がり、すばらしい音楽家を呼ぶための資金にな  
るならと始めたものが、気が付けば創立者にな  
ってしまいました。音楽監督を24年間務めさせて  
いただき、昨年リタイアしました。

—今や全米有数の音楽祭ですね。

池宮 国や宗教を超えてみんなで音楽を楽しむ  
お祭りです。当初はメイン州の小さな街を回り、  
今までクラシックに縁が無かった人たちにも楽  
しんでもらっていました。今は4つの街で  
それぞれ実行委員会ができ、街総出でサポート  
いただいています。私が演奏旅行で出会った世  
界中のすばらしい演奏家のみなさんに「いい所  
ですよ、避暑を兼ねて来てください」と少ない



神戸栄光教会でピアノ演奏をする池宮さん

ギャラで出演をお願いしています。

ニューヨークフィルやボストンフィル、日本フィルのメンバー、ロシアや日本の少年少女合唱団ほか世界各国から、また日本の三味線や尺八、琴の演奏者などにも来ていただきました。そして、ホームステイをしてもらっています。地元の人たちと世界中から来る人たち、特に子どもたちにとっては素晴らしい交流の場になっています。

私は人と人の心がつながり、最終的に世界が平和に導かれることを願っています。その一つの手段が音楽だと思います。

— 今後はどのような活動をお考えですか。

池宮 今、アメリカは行き詰ってきています。

世界中に資源を漁りに行ったり戦争を仕掛けたり……。無駄が多すぎて環境破壊が当たり前のようになってきている結果だと思います。それを自分たちから直していきたいと、有機農園を始め、地元の人たちと手をつなぎながら自給自足に近い無駄の無い生活をしています。また、経済の落ち込みで下層階級の人々が辛い状況に置かれています。

ニューヨークでは「マザーテレサホーム」でボランティアをさせていただけいていましたが、メイン州でも何かできないかと「私を役に立つことにお使いください」とお祈りしていたところ、ラジオでホームレスセンターのシスターが資金不足を涙ながらに訴えているのを偶然耳にしました。これこそ神様からのメッセージだと思い、実際に現地を訪ねシスターたちが貧しい生活を送りながらホームレスの人たちに尽くしている姿を見て心打たれ、早速チャリティーコンサートを開き収益を寄付することができました。神様の導きでできたこと。本当にありがたいことだと思います。

これからも地球人として世界で活躍させていただきながら、人々のハートをつなげる役に立てればいいなと思っています。

池宮 正信(いけみやまさのぶ)

1946年生まれ。京都市洛星高校在学中に渡米、オーベリン音楽院ピアノ科を主席で卒業。レインディアナ大学大学院で最優秀学生として修士号を取得。ピアニスト、チェンバリスト、室内楽奏者、指揮者、古楽器研究者、国際音楽コンクール審査員としての活動はアメリカ、カナダ、中南米、ロシア、ヨーロッパ、日本各地に及ぶ。80年米国メイン州にて自ら創立したアーカディ音楽祭の名譽音楽監督。アメリカ音楽、特に19世紀後半、自由を得た黒人たちの間から生まれたラグタイムのピアノとしても名高い。  
中南米の内戦で傷ついた人々の施設建設チャリティーコンサート実施やニューヨークのマザーテレサホーム支援など慈善活動にも力を入れている。アメリカ在住。

神戸っ子必見!! KOBE初のパーティイベント

# 「PARTY CITY KOBE」開催!!

開催期間—2006年2月中旬～3月末

「PARTY CITY KOBE」とは、開催期間にあわせて開かれる様々なパーティに行ってみませんか?

というイベントのこと。今回、神戸で初めて実施されることに!

神戸ならではの”ハイセンスな大人のパーティ”に貴女も出かけてみませんか?

開催されるパーティの詳細はまもなく発表!お楽しみに!!



神戸で素敵な  
パーティNightを



参加  
パーティ募集中!!



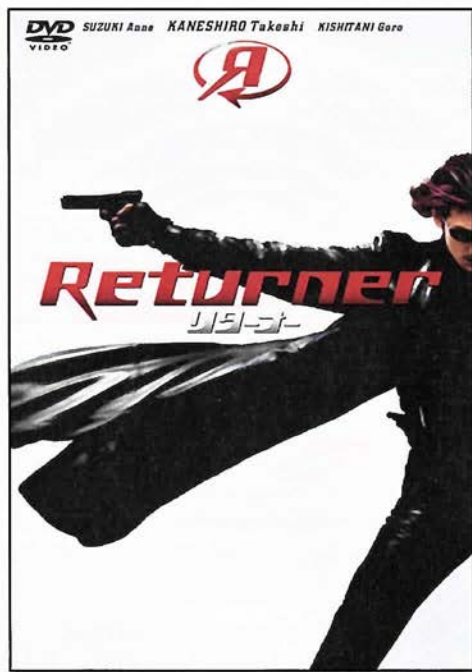
主催(財)神戸ファッション協会  
後援神戸市  
企画・運営(株)ドリームアンドモア  
お問い合わせ  
(株)ドリームアンドモア  
078・327・2155

田中まこの  
神戸が撮っても好き①



派手なカーチェイスに自動車爆破や銃撃戦。  
迫力満点のシーンはまるでハリウッド並み!?

「リターナー スタンダード・エディション」  
発売元 東芝エンタテインメント株式会社  
販売元 東芝エンタテインメント株式会社 /  
アミューズソフトエンタテインメント株式会社  
税込価格:5040円



映画「リターナー」

©2002 FUJI TELEVISION NETWORK/TOHO/AMUSE PICTURES/ROBOT/  
SHIROGUMI/IMAGICA All rights reserved.



©2002 FUJI TELEVISION NETWORK/TOHO/AMUSE PICTURES/ROBOT/SHIROGUMI/MAGICA All rights reserved.

昨年末に発表された報知映画賞で最優秀作品に選ばれ、日本アカデミー賞の優秀作品にも選ばれている『ALWAYS 3丁目の夕日』。本当に心温まる作品で、昭和30年代をリアルタイムで経験した私は特に懐かしい思いで観ました。

運良く、昨年、撮影所のスタジオセットを見せて頂く機会があったのですが、本当に凝っていて、もつとそのディテールのすばらしさをスクリーンで見せてほしかったほどです。でも、何より嬉しかったのは、当時をまったく知らない、昭和39年生まれの子供が監督がこの作品を演出したこと。というのも、山崎監督といえは、SFXを駆使した映画『ジュブナイル』や『リターナー』で知られており、私

の中では、「かっこいい作品を撮る若い監督」というイメージが強かったのです。

その山崎監督が、こんなほのぼのした作品も演出するとは……。感動しました。最初にこの作品を制作するというお話を聞いたとき、ぜひ神戸で撮影してほしいと思ったのですが、昭和30年代の東京となると、なかなか神戸にもほのぼのした風景が残っていません。スタジオにセットを組み、CGを駆使して当時の街並みを再現することになりました。つまり、VFXが得意な山崎監督だからこそできた作品だったのですね。

そんな『ALWAYS 3丁目の夕日』を観たら、山崎監督の前作、『リターナー』を神戸で撮影したときのことを思い出しました。『リターナー』は、依頼者からの情報をもとに闇の取引現場に潜入し、金を奪還、そしてその金を依頼者に送り戻す仕事をしている凄腕の「リターナー」ミヤモト（金城武）の話。ある日、彼は潜入していた闇取引の現場で、かつて自分の親友を殺した溝口（岸谷五朗）と再会します。怒りをあらわにして復讐を誓うミヤモト。

ところが、溝口に逃げられてしまいます。そこへ不思議な少女、ミリ（鈴木杏）がいきなり現れ、「重大な仕事」を手伝って欲しいとミヤモトに頼んできたのでした……。

この作品にかかわるようになったのは、2001年の初夏。ロボットという東京の制作会社から映画『Returner（リターナー）』のロケに関する相談がありました。ロボットは、「踊る大捜査線 THE MOVIE」や『海猿』、そして『交渉人 真下正義』などを制作している会社。打診の内容は、「海上に浮かぶオイルリグの内部のような撮影場所がないか？」というものでした。結局、市内では見つけることができなかったのですが、「姫路なら沿岸部に大規模なプラントがあるからイメージに近い場所があるかも」と問い合わせたところ、制作者のイメージ通りの場所が見つかりました。それから神戸ロケの話も具体的にになり、最終的には次の3つのシーンが神戸で撮影されました。①可能な限り普通



©2002 FUJII TELEVISION NETWORK/TOHO/AMUSE PICTURES/ROBOT/SHIROGUMI/IMAGICA All rights reserved.



©2002 FUJII TELEVISION NETWORK/TOHO/AMUSE PICTURES/ROBOT/SHIROGUMI/IMAGICA All rights reserved.



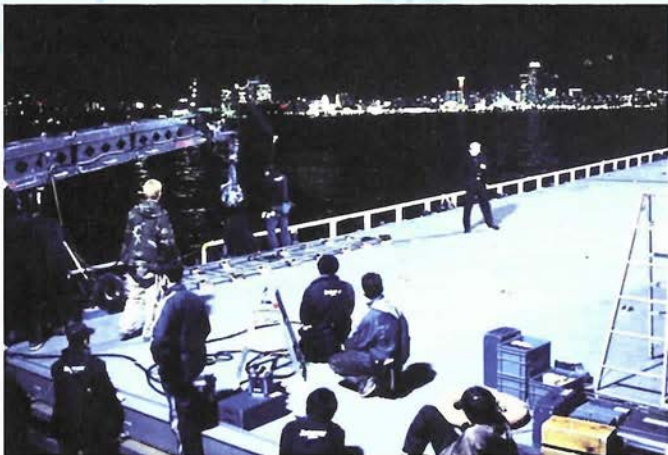
ワイヤーワークとVFXを駆使して描かれたSFアクション・ムービー。レニー・クラヴィッツが主題歌を提供したことで話題を呼びました。爆破シーンのロケ当日は神戸市消防局の方々にも待機してもらい、安全には万全を期しました。

の道路上でカーチェイスと自動車爆破②研究所のような施設での自動車爆破③着岸した貨物船上での夜間撮影と夜間空撮(約1週間の撮影)

カーチェイスは、主役の金城武さんと鈴木杏さんがバイクで逃げ、それを敵が車で追いつ、捕まると思った瞬間、車が爆破するというシーンです。広い空き地なら撮影も考えられますが、監督のリクエストは背景に背の高いビルがある公道。なかなか許可が下りる道が見つからなかったのですが、最終的にはカーチェイスの部分で神戸港の第4突堤へ向かう公道で、爆破シーンをポートアイランドの第2期にある公道で撮影することができました。フィルムオフイスとしても初めての経験で、当日はドキドキ。結果は、日本映画ではほとんど見られないスピーディーで派手なカーチェイスを撮ることができました。研究所のような施設については、西区の神戸複合産業団地内で撮影。ワイヤーで車を2台吊り、爆破させてから地面に落とすという迫力満点の



©2002 FUJI TELEVISION NETWORK/TOHO/AMUSE PICTURES/ROBOT/SHIROGUMI/MAGICA All rights reserved.



ミヤモト(金城武)とミリ(鈴木杏)の前に立ちをはかる殺人マシン・溝口役には悪役初挑戦の岸谷五朗さんが!



夜の撮影が多かった神戸ロケ。日中、ホテルで待機していた金城武さんのお友達はもっぱらテレビゲームだったとか?!



©2002 FUJI TELEVISION NETWORK/TOHO/AMUSE PICTURES/ROBOT/SHIROGUMI/MAGICA All rights reserved.

シーンを撮ることができました。貨物船とヘリコプターの銃撃戦については、当時はまだガントリークレーンが並んでいたポートアイランドの西の岸壁に貨物船を着けて撮影。岸谷五朗さんに乗せたヘリコプターとカメラを載せたヘリコプターを夜間に飛ばして撮ることに成功しました。撮影は初冬の深夜だったので、私たちもキャスト・スタッフ50人分の豚汁を炊き出し、とても喜んで頂きました。

このように、神戸と姫路が協力して撮影が実現した『リターナー』。その完成度は、ハリウッドの映画会社にも評価され、なんとアメリカでも公開されることになりました。私たちが支援した日本映画が海の向こうでも見てもらえる…。この仕事に誇りを感じた瞬間でした。

田中まこ／1955年大阪生まれ。カリフォルニア大学ロサンゼルス校で2年学んだあと国際基督教大学編入・卒業。司会、DJ、通訳、翻訳などを手がける。2000年9月より神戸フィルムオフィス代表。

神戸フィルムオフィス

神戸市中央区港島中町6-9-1

神戸国際観光コンベンション協会内

☎0783062021

http://www.kobefilm.jp